

2026年3月期 第2四半期 決算補足資料

株式会社イノベーション（東証グロース市場：3970）

スマートフォン向けサマリ（通常版 決算補足資料は[こちらから](#)）

業績ハイライト

売上高

3,369 百万円（YoY **+778** 百万円）

- ↑ 株式会社シャノン業績の取り込み開始
- ↓ オンラインメディア事業・金融プラットフォーム事業の売上高が前年比で減少

営業損益

△261 百万円
（YoY **△447** 百万円）

EBITDA

△45 百万円
（YoY **△264** 百万円）

- ↓ のれん・無形固定資産の償却及び新規事業開発の推進コスト
- ※ 下期からは事業構造改革フェーズに移行。収益性改善とグループシナジー創出を重点テーマとして推進中。

経常損益

△327 百万円
（YoY **△508** 百万円）

親会社株主に帰属する当期純利益

△269 百万円
（YoY **△293** 百万円）

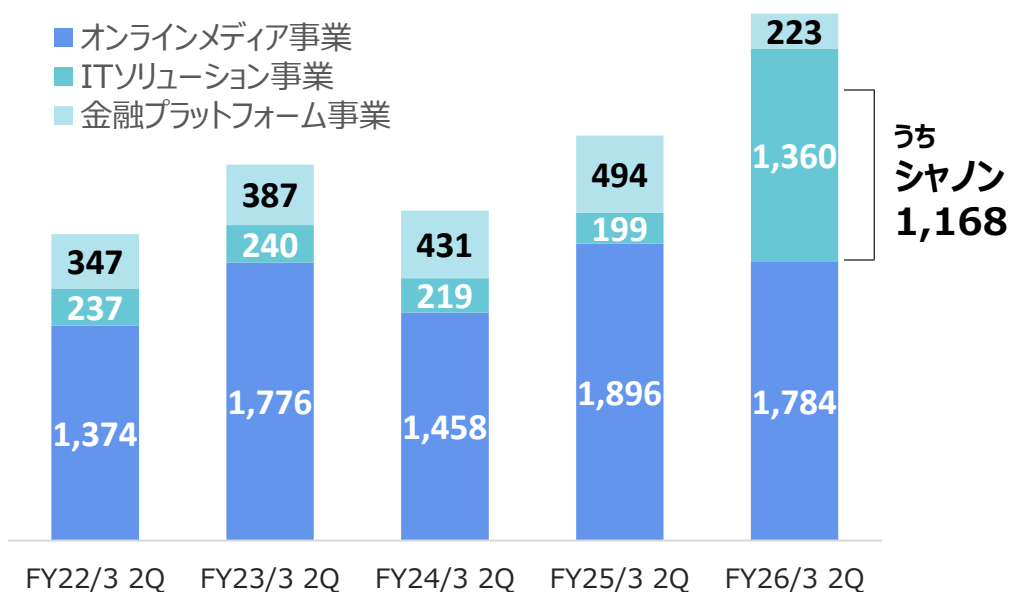
- ↓ TOBに係る借入利息増加
- ↓ 及び借換に伴うストラクチャリング手数料
- ※ 財務の安定性と投資余力を両立した健全な資金運用体制を維持（自己資本比率38.5%）

売上高/営業損益

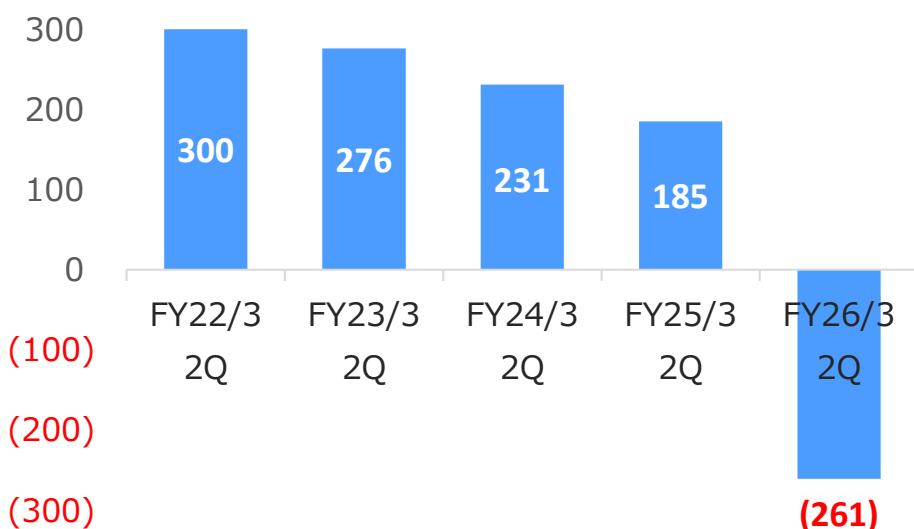
↑ 株式会社シャノンの連結開始により、
ITソリューション事業の売上高が大きく伸長

↓ オンラインメディア事業・金融プラットフォーム事業の売上高減少
のれん・無形固定資産の償却と新規事業開発推進コストを計上

▶ セグメント別売上高 単位：百万円

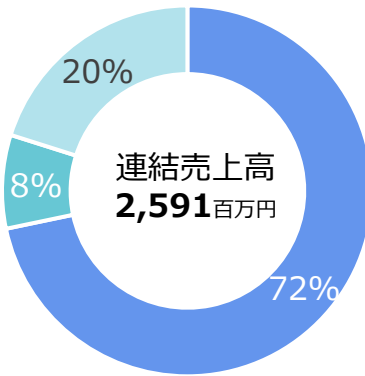


▶ 営業損益 単位：百万円

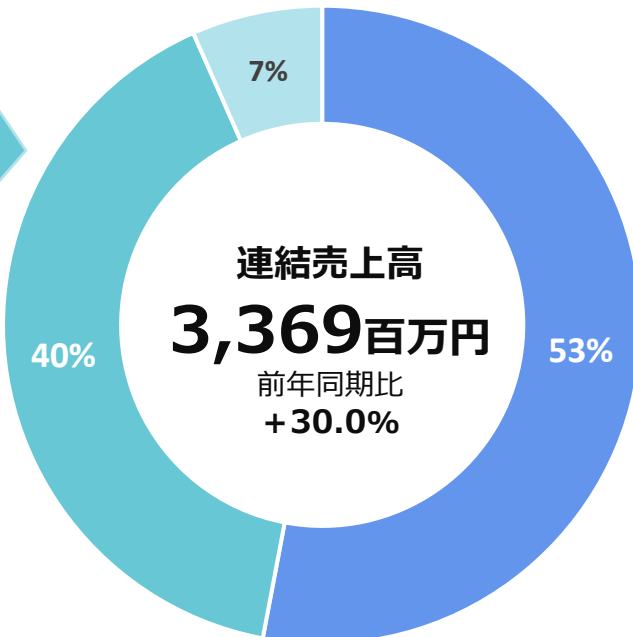


セグメント別売上高構成

- ↑ 株式会社シャノンの連結開始により、ITソリューション事業の構成比が大きく伸長
- ↑ 連結売上高に占める割合は約40%まで上昇し、ストック収益比率が向上



ITソリューション割合増(+32%)



- オンラインメディア事業
- ITソリューション事業
- 金融プラットフォーム事業

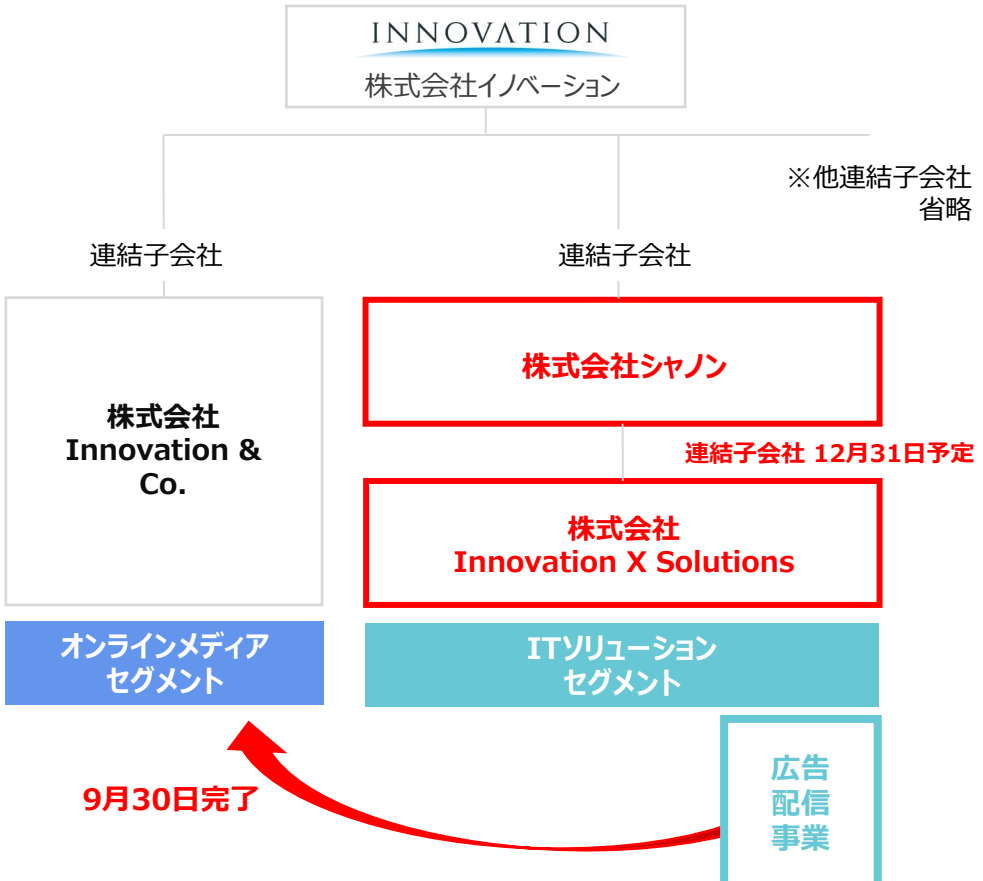
グループ再編

↑株式会社シャノンの「広告配信事業」を、株式会社Innovation & Co.へ譲渡（9月30日完了）

・既存のオンラインメディア事業と連携し、顧客の多様なマーケティング活動を支援できる体制を整備

↑株式会社Innovation X Solutionsの全株式を株式会社シャノンへ譲渡（12月31日予定）

・Innovation X Solutionsが提供する「List Finder」、シャノンが提供する「SHANON MARKETING PLATFORM」は機能や価格帯の違いから顧客層を分けていたが、本再編により顧客カバレッジを拡大し、マーケティング・オートメーション市場での競争力を強化。



成長戦略

①コストコントロール

事業運営の筋肉質化

- ・原価・販管費の見直しと生産性向上により、持続可能な体制を構築
- ・スピードと実行力を重視し、無駄を削ぎ落とした“動ける組織”へ
- ・収益性を軸にした意思決定を徹底

②新収益モデルの早期立ち上げ

収益モデルの進化

- ・既存事業において、会員・データ・イベントなどの収益源を再構築
- ・新領域では、AI時代に適応した稼ぐ仕組み（LTV型モデル）を早期に実装
- ・短期収益と中長期成長の両立を図る

③生成AIへの対応

生成AIを活かしたサービス変革

- ・生成AIを活用し、業務効率と顧客価値の両面で競争力を強化
- ・AIによる情報提供・集客手法を再設計し、検索依存からの脱却を推進
- ・既存サービスのアップデートと新機能開発を加速